

食育実践に向けた近畿地域の連携シンポジウム

【開会挨拶】 近畿農政局次長 藤池 淳

ただいま、紹介がありました近畿農政局の藤池でございます。

本日ご参集の皆様方には、日頃から農林水産行政の推進にご理解とご協力を賜り、篤く御礼申し上げます。

また、基調講演をいただく藤本先生をはじめ、事例発表や意見交換に参加いただく皆様方に厚く御礼申し上げます。

まず、はじめに3月11日でございます、東大日本震災が発生いたしました。この未曾有の大災害で被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。

被災地につきましては、農林水産省といたしましては、全力で復旧、復興に当たってきており、近畿農政局といたしましても、農地、農業用施設の復旧の支援でございますとか、消費者団体への正確な情報提供などを行って参ったところでございます。

政府全体といたしましても、6月20日でございますが、復興基本法が成立し、この週明けには復興対策本部が設置されますとともに、復興構想会議提言が昨日、総理に答申されたところでございます。

さて、政府では、昨年3月でございますが、私たちの「いのち」、これを支えます「食」と「地域」の再生を図るための基本指針となります、新たな食料・農業・農村基本計画を策定しております。

この計画におきまして、食育につきましては日常の食生活でございますとか、生産流通現場におけます体験、こうしたものを通じまして、食のあり方を考えること、これが重要であることから、食育を推進することとされております。

食育につきましては、もちろん栄養バランスの改善でございますとか、正しい食習慣の形成によりまして、健全な食生活を推進するとともに、食に関する知識と理解を深め、私どもの食を自らの判断で正しく選択できる力を育てることが重要であります。

一方、食、食べ物、これに感謝の念を持つこと、これも食育の大切な柱の一つでございます。

食は命の恵みです。種から生まれ、太陽のもとで育つ米、野菜、こうした作物。牛、豚、鶏といった生き物。また、海は母なる海と呼ばれます、そこに生きる魚。私たちはこうした命の恵み、食べ物によって生きています。こうした命の恵みを実感するには、農林水産業の営みについての理解が不可欠でございます。

しかしながら、戦後、都市化が進展する中で、多くの国民は農林水産業の体験をしないで育ってきております。私どもがお聞きしたところによりますと、小学校で食育を実践されている方々は、指導者の方自身が農業の経験が少ないことが悩みの一つだと聞いております。また、生産地と消費地の距離が拡大したことから、農家の皆さんとの連携に困っているというお声も聞いております。

こうした問題を克服するために、未来につなぐ食育プロジェクトを立ち上げたいと考えております。

これは、命の恵みを実感する食育の実践者の方々の情報共有、相互支援のネットワークになればと考えております。

具体的にはこの後、担当の課長から説明いたしますが、食育における体験、これをしっかりと支援していきたいと思っております。

今、申し上げたこと、これをイメージとして取りまとめたものがございます。

お手元の資料、結構分厚い中で一番最初にピンクのチラシがあるかと思えます。この中に、あいさつでは、通常、資料は紹介しないのですけれども、冒頭に資料1とした資料をお配りしております。

「食は命の恵み」というもの、次に青い、小学校、幼稚園の子供向けのような紙で「食は命の恵み」、一番最後に「農業ボランティアに参加しませんか」という3枚紙があるかと思えます。今、私が口頭で申し上げたことを取りまとめたものでございます。

1枚目には、真ん中より下、黄色で目立つかと思えますけれども、「未来につなぐ食育プロジェクト」とございます。

2枚目でございますが、先ほどお話しいたしました「食は命の恵み」についてまとめたものでございます。作物、生き物、魚のイメージでございます。

3枚目でございますが、私ども農政局で、耕作放棄地、こうしたものを解消するボランティアにつきましての、また、いろんな取り組みをやっていこうかと思っておりますので、そのイメージの図でございます。3枚目でございます。

今、ご説明いたしましたこの3枚の紙、この紙に書き切れなかったことを2点だけ、最後にお話しして、私の挨拶にかえたいと思います。

1点目でございますが、全国の小学校のすべての子供たちが農林漁業を体験いたしまして、命の息吹を直接感じるということで「子ども農山漁村交流プロジェクト」、こういう取り組みが今進められております。

しかしながら、こうした子どもたちが学校の先生になるためには、少なくともあと10年はかかります。それまでの間、今、いろいろな場でいろんな取り組みが行われておりますが、この「未来につなぐ食育倶楽部」も命の恵みを実感する食育の展開の一助になってくれればと思っております。それが1点でございます。

あともう1点でございますが、皆様、いろいろな形で感じておられる方は多いかと思いますが、今、命の大切さを忘れたかのような「児童虐待」でございますとか「子殺し、子どもを殺す、親を殺す」、こうしたことが目に余るかのような、今の社会の事象がございます。これにつきましては、いろいろな要因がございますが、命の恵みを実感していくということは、命を大切にす社会への第一歩ではないかと私は思っております。

最後になりますが、本日、ご参集の皆様の一層のご活躍を祈念いたしまして、簡単でございますが、私の挨拶とさせていただきます。

今日はよろしく願いいたします。